

## 南のひと 24

写真・文＝水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。  
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を  
込めて撮影している。



暮らしの営みが見えにくい観光地にはなかなか興味を抱きにくい。私にとっての川平湾周辺とは、そんな場所だった。

3月の半ばに、撮影の仕事で川平湾をおとずれ、同行していた M さんが、「お久しぶりです」と展望台で会話を交わしていたのが『公園茶屋』の岸本亮さんだった。川平湾周辺で暮らす『人』に、初めて出会った。

岸本さんは、5年前に石垣から川平に移り住み、祖母の代から始まった『公園茶屋』を受け継ぎ、母親と一緒に営んでいる。昭和36年に冷たい物をお客さんに出すお店として始まり、その後そばをメニューに加え、ひとり旅で訪れる学生などが「今晚泊めてもらえないでしょうか？」と訪れるようになったことがきっかけで、民宿も始めた。

「小さかった頃の川平湾での思い出を教えてください」と聞くと「お父さんが仕事でグラスボートに乗っていたので、町から遊びに来るたびに一緒にボートに乗った。30年ぐらい前の川平湾の珊瑚は見事だったよ。お昼には、子ども心にカレーライス食べたいな、と思いながらも、じいちゃん、ばーちゃんの作るそばを食べていたよ」と冗談交じりに話してくれた。当時は、自家製麺だったので、麺を作るのを横でよく眺めていたそうだ。「茹でたての麺を横から味見していたよ。あれは美味しかったな」と亮さんは懐かしそうに笑みを浮かべた。

岸本さんは暮らしの中で、日記を書くように川平湾の写真撮っている。

「忙しい時は、朝5時ぐらいからそばの仕込みをするんだけど、夜が明けてきて、空が赤く染まってきたら、今だ！とカメラを持って走ったり、夕方仕事が終わってホッと一息つきながら夕日を撮りに出かけるんですよ」と教えてくれた。岸本さんの写す川平湾は、観光地、川平湾ではなく自宅の前の風景、川平湾なのだ。そこには、人の営みがあり、日常というストーリーが更新され続けている。

水野暁子 みずのあきこ  
1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。